



2022年10月28日

各位

会社名 協栄産業株式会社
代表者名 取締役社長 平澤 潤
(コード番号 6973 東証スタンダード市場)
問合せ先 取締役常務執行役員
村本 篤
(TEL 03-4241-5511)

連結業績予想の修正および剰余金の配当（中間配当）に関するお知らせ

2022年5月13日に公表いたしました2023年3月期通期連結業績予想について、下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

また、当社は、2022年10月28日開催の取締役会において、下記のとおり、2022年9月30日を基準日とする剰余金の配当を行うことを決議いたしましたので、合わせてお知らせいたします。

記

1. 連結業績予想数値の修正

(1) 2023年3月期通期連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	56,000	1,100	1,050	850	279.46
今回発表予想 (B)	60,000	1,600	1,600	900	299.37
増減額 (B-A)	4,000	500	550	50	-
増減率 (%)	7.1	45.5	52.4	5.9	-
(ご参考) 前期実績 (2022年3月期通期)	56,978	1,386	1,381	2,055	675.97

(2) 理由

当第2四半期連結累計期間におきましては、為替相場が円安基調で推移したことなどもあり、公表値を上回る結果となりました。事業セグメント別では、プリント配線板事業では、自社製基板ビジネスは、度重なる材料の値上げならびに生産設備の不具合等により生産効率が低下し苦戦を強いられました。また、中国基板メーカーと連携して行っている海外基板ビジネスも、円安基調が継続していることにより売上面、利益面とも低調に推移しました。他方、当社事業の過半を占める、半導体デバイス事業において、為替相場が、円安ドル高で進行したことと、部材供給において、一時の逼迫状況が解消する方向に進んだことにより、車載、事務機器向けのメモリ、スマートフォン向けの部材等の販売が好調に推移しました。

第3四半期以降は、半導体デバイス品、これらを生産する機械装置の需要は底堅いものがある一方、海外経済の減速を背景に半導体デバイス品を中心に需要の調整圧力が高まることが予想されるなど不確実性がありますが、当第2四半期連結累計期間の業績等を総合的に勘案した結果、5月13日に公表いたしました2023年3月期通期連結業績予想を上回る見通しとなりましたので、上記の通り修正することといたしました。

なお、上記の業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しており、実際の業績は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

2. 剰余金の配当（中間配当）

(1) 配当の内容

	決定額	直近の配当予想 (2022年5月13日公表)	前期実績 (2022年3月期)
基準日	2022年9月30日	同左	2021年9月30日
1株当たり配当金	40円	30円	30円
配当金の総額	120百万円	—	90百万円
効力発生日	2022年11月29日	—	2021年11月29日
配当原資	利益剰余金	—	利益剰余金

(2) 理由

当社は、株主還元を重視し、配当性向を考慮し安定した配当を継続することを基本方針としております。

中間配当金につきましては、当第2四半期連結累計期間の業績等を総合的に勘案し、1株当たり40円とすることといたしました。

また、期末配当につきましては前回予想の30円を据え置き、年間配当の予想は1株につき70円としております。

(3) ご参考

基準日	1株当たり配当金(円)		
	第2四半期末	期末	年間
前回予想 (2022年5月13日公表)	30円	30円	60円
配当予想	—	30円	70円
当期実績(2023年3月期)	40円	—	—
前期実績(2022年3月期)	30円	30円	60円

以上